

日本とアジアから世界の平和構築に如何に貢献すべきか - 現場での取組、知的貢献、そして人材育成 -

2007年11月15日
外務省国際平和協力室長
紀谷昌彦

1. なぜ今平和構築なのか

(1) 世界にとっての平和構築

- ・ 冷戦後、内戦が増加。人道、テロ等諸問題が発生。国連P K O等も拡大。
- ・ 治安から復興まで包括的な取組が必要。諸機関・フォーラムで大きな課題に。

(2) 日本にとっての平和構築

- ・ 自国の安全保障、国際的な責務。
- ・ 明治開国・戦後復興 - 「平和国家日本」の新しい旗印に。

(3) 来年という機会

- ・ 国連平和構築委員会の議長国
- ・ T I C A D 4 (5月)
- ・ G 8 北海道洞爺湖サミット (7月)

2. 平和構築における日本の強みは何か

(1) 治安の確保と法の支配の実現

- ・ 小型武器・地雷対策
- ・ 法整備支援

(2) コミュニティの再建と人間の安全保障

- ・ 人間の安全保障の視点からの様々な支援とパートナーシップ

(3) 和平合意から国づくり・行政能力強化

- ・ オーナーシップを重視した「国づくり・人づくり」
- ・ 南南協力

(4) 雇用の確保と経済成長の推進

- ・ インフラ整備、円借款の活用
- ・ ビジネスとの連携

3. 日本は平和構築にどう取り組むのか

(1) 現場での取組 (安全基準・安全対策が大きな課題)

(イ) P K O

- ・ 国際平和協力活動の本来任務化、中央即応集団の編成等の制度整備
- ・ 要員派遣 (東ティモール、ネパール等)

(ロ) O D A

- ・ O D A 大綱の柱の一つ、支援アプローチの改善
- ・ 基盤としての現地機能強化

(2) 知的貢献 (知見の整理・深化と対外発信が大きな課題)

- ・ 現場の知見や各種の研究を共有し政策に反映 (徐々に進展)
- ・ 国際会議等の場を通じて発信

(3) 人材育成 (教育に加えて就職の場の確保が課題)

- ・ パイロット事業の開始 (人材育成から政策研究・キャリア支援のハブ形成へ)
- ・ 関係省庁連絡会議等を通じての政府一体の取組の推進
- ・ 日本のみならずアジアやアフリカの人材育成も

4. 日本とアジアから世界の平和構築へ

(1) なぜアジアなのか (日本にとっての「アジア・カード」)

- ・ アジアの成功と豊富な事例
- ・ 域内協力から地域間協力へ (アジア・アフリカ協力等): 「開かれた地域主義」
- ・ 「巻き込み」「盛り上げ」が必要 (主役は他者に譲っても十分に評価される)
- ・ 他地域や国際機関への配慮が不可欠 (普遍性への翻訳作業)

(2) 実践と発信のメカニズムをどう確立するか

- ・ 人材育成からのネットワーキング (日本とアジアと世界の現場を結ぶ)
- ・ 第1回東京平和構築シンポジウム (来年3月)

“Peacebuilding Experience and Wisdom from Asia to the World”

以後毎年開催、平和構築を巡る世界の取組にアジアから付加価値を提示。

日本は率先実行により範を示す (実践と発信の相乗効果)。

いかなるアジェンダやメッセージを打ち出していくか?

どのように持続、発展させていくか?

(以上)